

## 会議結果概要書

1 会議名	令和7年度第2回名寄市上下水道事業経営審議会
2 開催日時	令和8年1月27日（火）午後6時28分から午後7時39分まで
3 開催場所	駅前交流プラザ よろーな2階 会議室3
4 委員	山上会長（○）、臼田副会長（○） 和田委員（○）、川瀬委員（×）、栢山委員（○）、櫻庭委員（○）、 吉川委員（○）、久保委員（○）、藤島委員（○）、清水委員（×） ※委員10人中8人出席
5 事務局	橋本副市長 東建設水道部長、佐藤上下水道室長（兼建設水道部次長）、有門工務課 長、松永浄水場長、大沼下水処理場長、成毛業務課長、坂上業務課主査、 中島業務課主査、本間業務課主査、小林業務課主査
6 議題等	委嘱状交付 会長、副会長選出 協議1 水道事業及び下水道事業経営戦略の改定について
7 会議結果	○会長、副会長選出 委員の互選により山上会長と臼田副会長を選任 ○協議1 水道事業及び下水事業経営戦略の改定について ・水道事業及び下水道事業経営戦略改定素案について説明する。 ※主な質疑・意見等については別紙1のとおり  ○次回開催 （日程）令和8年2月5日（木）（予定） （内容）経営戦略改定素案の審議

## 令和7年度第2回名寄市上下水道事業経営審議会 主な質疑・意見等

## ○協議1 水道事業及び下水道事業経営戦略の改定について

**問** 昨年、水道料金を改定したが、それに伴っての計画となっているのか。

**答** 令和7年9月に料金改定をしましたが、その際、自衛隊駐屯地への給水を令和8年度から開始することで見込んで料金を改定しました。しかしながら、自衛隊駐屯地への給水開始が遅れており、計画では令和9年度から給水開始と見込んでいます。したがって、その給水収益分が既に1年分遅れての収入となっているため、現行料金の算定期間が終了する令和11年度までには、見直しの検討が必要であると考えています。

**問** ウォーターPPPの内容を教えてください。

**答** 令和5年度に国土交通省から示されたもので、簡単に言いますと、官民連携方式によってインフラ施設の維持管理等を行うものです。民営化とは違い、官が担う部分と民が担う部分のすみわけを行い、インフラ施設を運営していくものとなっています。本市においては、その可能性調査を今年度から実施しており、下水道施設のみの調査を行っているところです。まだ可能性調査の段階ですので結論は出ておりませんが、今後、持続可能な下水道事業経営をしていくためにも、コスト面、施設の維持管理の体制など、総合的に考えながら、慎重に検討していきたいと考えています。

**意** ウォーターPPPは、国からの指導もあるので、コスト面など総合的に判断して、良い方向になるように検討してほしい。仮にウォーターPPPを導入する場合、地元業者と協力できる体制をつくり、地域経済の影響が最小限になるように検討を進めてほしい。

**問** 下水道事業経営戦略の概要版の3頁にダウンサイジングを検討すると記載されているが、このダウンサイジングとはどういうものなのか。また、下水道の処理区域の面積を縮小していくことを検討するのか。

**答** 今後の人口減少によって、当然、排出される汚水量が減っていきます。それに伴って、施設更新などの際に、施設能力を縮小し、施設の効率化を図るものです。例えば、下水処理場ですと、汚水を処理する水量が減少すると、それを処理する能力が小さくて済むこととなります。こうしたことから、機械などの設備を更新するタイミングで設備を縮小することによって、消費する電力も少なくなっていくので、経費が削減できると考えています。

また、下水の処理区域の面積を縮小していくことは難しく、施設能力を縮小することで施設の効率化が図れることにより、ダウンサイジングにつながっていくのではないかと考えています。

**問** 水道事業経営戦略の概要版5頁にもダウンサイジングの検討と記載されているが、このダウンサイジングとはどういうものなのか。

**答** 先ほどの下水道のダウンサイジングの話と同様に、水需要の減少に伴い、施設更新する際に、身の丈にあった設備にしていくことは可能ではないかと考えています。ただし、配水池などを縮小することは難しく、もし漏水がおきた場合、安定的に水が供給できなくなってしまうことや自衛隊への給水が今後予定されていることを踏まえて、余裕をもって貯水などの備えをしていきたいと考えています。

**問** 水道事業経営戦略の概要版5頁に記載している施設・設備の廃止・統合というのはどういったものなのか。

**答** 例えば緑丘浄水場でいいますと、最初に建設しました「創設棟」、第1次拡張時に建設しました「1 拡張棟」、第2次拡張時に建設しました「2 拡張棟」の3つ設備があり、現在稼働しております。将来的に水需要が減った際に、一番古い「創設棟」を廃止して「1 拡張棟」に統合していくのか、そういった検討ができるのではないかと考えています。

**問** 水道事業の純損益の見通しが、令和12年度以降から赤字になる理由は。また、水道利用者から見ると、水道料金は上がってほしくないが、経営を考えると、今後、物価高や人件費の高騰などで、経営が厳しくなると思う。色んなことを想定して収支を見込んで、料金水準を見直すべきではないか。

**答** 昨年の料金改定は、改定をしなければ、令和10年で保有する現金がなくなることが見込まれたので、9月使用分から水道料金の改定をさせていただきました。その際の料金改定の算定期間は令和7年度から令和11年度までの5年間で算定しており、その期間の収支が見合うように平均18.35%上げましたが、令和8年度に見込んでいた自衛隊への給水開始が令和9年度にずれ込むことにより、令和12年以降の純損益の見通しが赤字となっています。したがって、料金算定期間の令和11年度までには、収益やコストなどを見つつ、料金水準の見直しをしなければならないと考えていますのでご理解願います。